

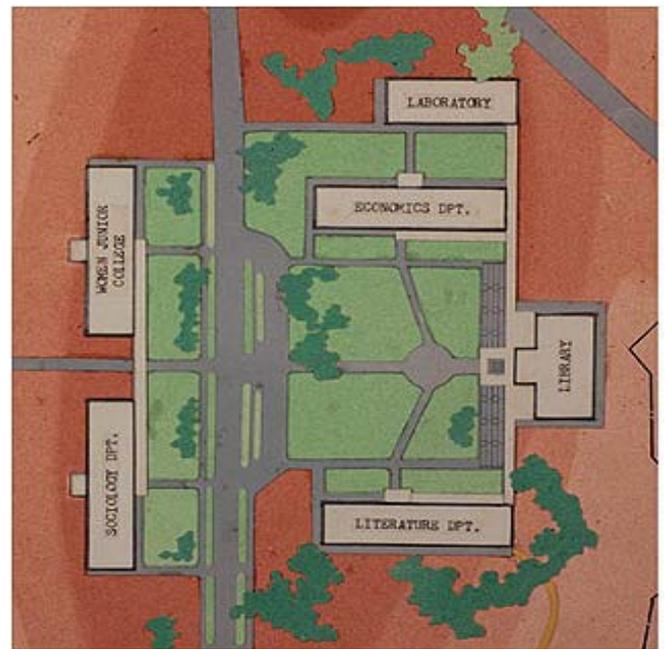
# 南山アーカイブズニュース

Nanzan Archives News

第3号 2010年10月15日

## 目次

- 私とアーカイブズ……………五島敦子…2  
《南山発見》「珍しい学校」から、「普通の学校」へ……………高橋晴之…3  
《史資料紹介》牧野房男 南山中学校第四代校長……………會澤俊三…4



南山大学（現名古屋キャンパス）計画図（66.0 cm×54.5 cm）

SOCIOLOGY DPT. ECONOMICS DPT. LITERATURE DPT. とともに、WOMEN JUNIOR COLLEGE  
の表記が見える。この図が作成されたのは1949 - 1950年の間とされる。（南山学園史料室所蔵）

## 私とアーカイブズ

五島敦子

2010年度より史料委員会の委員に任じられましたご縁で、小文を寄稿させていただきます。私とアーカイブズとの出会いは、オハイオ州立大学大学院短期留学中に、同大学のアーカイブズを訪ねたことに始まります。教育史専攻の私は、アメリカ大学史の中でも、とくに大学成人教育史に関心を持ちました。そこで、帰国後に、エクステンション活動を先駆的に展開したウィスコンシン大学（UW）を取り上げて、研究を深めることにしました。最初にUWアーカイブズを訪れたのは1998年ですが、その後10年以上も通うことになることは夢にも思いませんでした。

大学史研究に用いる史料は多岐にわたり、学内に点在しています。理事会議事録や人事記録、個人文書など、複製不可のものや個人情報に触れるものが多く、アクセスは容易ではありません。私が研究対象とする社会貢献事業の場合、州政策との関連が深いため、州歴史協会の史料も必要です。しかも、日本からの短期間の訪問調査ですから、事前にアーカイブズの情報を特定しておき、マニユスクリプトをピンポイントで入手する必要があります。私がこれらの困難に立ち向かうことができたのは、第一に、Web上のデータベースの充実、第二に、アーキビストの援助、という二つの幸運によるものです。

UWアーカイブズは、“The University Archives and Records Management Services (ARMS)”という記録管理業務の一部に位置づけられています。その任務は、「大学の文化的遺産を保存し、要請に応じて記録を提示すること」で、写真から個人文書まで多くの情報がデータベース化され、Web上で検索できるサイトが作られています。

ARMSは、2010年6月現在、7人のスタッフで

運営されています。その中には、オーラルヒストリー担当や写真担当など、専門性の高いアーキビストがいます。彼らに事前にメールで史料の所在を問い合わせると、訪問当日には、広大な地下倉庫から資料箱を探し出し、カート一杯に積み上げて待っていただきました。調査に行き詰まったときは、他の史料や研究者について、アドバイスを頂くこともありました。データベースの発展も、彼らの専門的力が発揮された成果といえるでしょう。貴重な史料との幸運な出会いは、こうした優れたアーキビストの手助けがあってこそ可能となりました。

UWアーカイブズは、学術研究に資するだけでなく、大学の存在意義を広く社会に知らせる役割を担っています。大学の営みを正しく記録し、積極的に公開することは、大学のアカウントビリティを果たすという考えです。そのため、史料展示やWeb上の史料公開が盛んに行なわれています。

スタッフやデータベースの充実など、恵まれた条件は羨ましい限りですが、もちろん、問題もあるようです。ARMSのディレクターによれば、近年では、電子メールの利用が多くなって記録の収集が難しいうえ、保存規定の共通理解が深まらず、文書保存に偏りがでているそうです。また、リーマン・ショックの影響で、職員の欠員補充が延期されたというように、経済の波と無縁ではありません。

これまでの私は、史料を利用するだけの立場でした。今後は、南山学園の史料保存という責務を担いますので、アーカイブズの実情についても、学んでいきたいと思っています。

(南山短期大学)

## 「珍しい学校」から、「普通の学校」へ

高橋晴之

まだ帰国子女が珍しかった20年ほど前、他校の教員と話していると「帰国子女だと英語で授業をやるんですか」と聞かれた。その後企業の海外進出が増え、日本で働く日系人も多くなり「帰国子女・外国人＝英語を話す」ではないことも理解されていく中で、南山国際（南山中学校帰国子女特別学級→南山高等・中学校国際部→南山国際高等・中学校。以上の変遷については『HOMINIS DIGNITATI 南山学園創立75周年記念誌』第2章第4節、2007年、南山学園）は「珍しい」という扱いから「普通の学校」になっていったと言える。

南山中学校への帰国子女特別学級設置を報じた1979年2月28日付の『中日新聞』では「他の大学でも帰国子女受け入れが行われ始めているが、中学から大学までの一貫体制を組んだのは全国でも初めて」と、中等教育での本格的な対応を「珍しい」と捉えている。同年3月6日付『朝日新聞』や翌日の*The Japan Times*でも「中学から大学まで一貫した海外子女教育が実現する」（『朝日新聞』）としている。また同じ『朝日新聞』記事の中で、「海外に長期間滞在して帰国する家庭の子女は、国語などの能力が落ちるといわれるが、帰国後、日本の中、高校へ編入出来ても適切な指導が受けられない、などの悩みがある。」と述べられ、このころの帰国子女教育の論点は「日本への適応」であった。

1980年6月27日付『中日新聞』夕刊に載った、東京テレビ製作の『遠い国—ユカリの日本』の紹介記事でも「日本語もたどたどしく、思考習慣も異なる外国帰りの子どもたちは、今の日本の教育の現場では厄介者でしかあり得ない。数の上からはマイナーな存在だが、マイナーとして切り捨てられていく彼

らの存在は、過熱気味の日本の受験教育、国際的に閉鎖性の強い日本社会告発の象徴ともいえる。」とある。

1981年1月31日付各新聞には南山高等・中学校国際部設置が報じられ、「帰国子女のみを対象として中高一貫教育をするのは東海地方では初めて」（『朝日新聞』）と記されている。特に『日本経済新聞』では中部経済連合会の好意的なコメントもあり、帰国子女教育が大きな関心事であったことを示している。

「南山国際高等・中学校」を紹介した1993年9月6日付『中日新聞』は、「私服で髪型も思い思い。イヤリングをしている子もいる。短大のような雰囲気だ。」とあり、まだ奇異な存在として扱われている。

最近では、一般紙では米国ホープウェル高校生の来校記事が目立つ程度である一方で、専門誌『月刊海外子女教育』では、2002年10月・11月号で「帰国子女教育の最先端」として特集が組まれたり、2008年3月号の「帰国生受け入れ専門高校からのメッセージ」という特集に東京学芸大学附属高等学校大泉校舎、国際基督教大学高等学校、同志社国際高等学校、千里国際学園高等部と共に参加し、帰国子女教育への高い評価は続いている。

これらの記事を通じて、帰国子女が珍しくなくなっていくプロセスを見ることができる。それはこの30年余の日本社会の変化の一つの側面を示したものであり、閉鎖的で過度の管理教育が当然だった日本の教育が、一種のグローバル化を果たした経過を伝えるものと考えられるだろう。

（南山国際高等・中学校）

史資料紹介

## 牧野房男 南山中学校第四代校長

會澤俊三

1910年10月20日、三重県津市常磐町に生れる  
1923年3月、大阪市久宝尋常小学校卒業  
1923年4月、大阪市明星商業学校入学（28年卒）  
1928年3月、金沢市広坂教会で神学校入学準備  
1929年9月、東京公教カトリック神学校入学  
1936年3月21日、カトリック司祭に叙階  
1936年4月、名古屋教区熱田教会助任  
1937年11月、教区長ライネルスとの秘書  
1939年4月、財団法人南山中学校理事就任  
1940年、教員資格を得るため法政大学入学  
1942年、東京教区西小山（現・洗足）教会主任  
1944年9月、法政大学法文学部卒業  
1946年1月、南山中学校第四代校長就任  
1948年1月、南山学園理事兼南山中学校校長退任  
1948年、さいたま教区足利教会主任  
1950年、さいたま教区前橋教会主任  
1961年、さいたま教区館林教会主任  
1976年、さいたま教区藤岡・新町教会主任  
1990年、藤岡・新町教会名誉司祭  
2004年9月13日、藤岡教会にて帰天 93歳

1928年中学卒業のとき、司祭への道を志す牧野房男はヨゼフ・ライネルスの勧めで名古屋教区神学生として金沢の教会に居住して神言会司祭からラテン語などを学び、1929年に東京府北豊島郡石神井村に新築開校された東京公教神学校に入学した。

1934年の『日本カトリック新聞』には、南山中学校教諭パッヘを主軸に創立された南山カトリック・ボーイスカウトの一週間キャンプ訓練で「目下帰名の東京公教神学校の牧野神学生がカトリック的精神指導に尽力した」の記述がある。

1936年3月21日、カトリック司祭に叙階され、名古屋教区の熱田教会助任に就任、司牧宣教活動に専心した。日中戦争で教会活動が困難になるなかで、信者の間で非常に活発に働き、主任のドイツ人神父

は何度もブレーキをかけたという。



1938年撮影 中央 ヨゼフ・ライネルス教区長  
左 牧野房男

1937年11月、南山学園内のピオ十一世館に転居し、教区長秘書として富山・石川・福井・愛知・岐阜の五県にまたがる名古屋教区教会行政を手伝い、1938年11月からは月刊『名古屋教区報』の編輯校正発送にいたるまでの一切の仕事をも受け持った。牧野房男作詞・チャプリッキ作曲のクリスマス聖歌3曲も収録されている。1939年～41年にパウルス・チャプリッキは南山中学校で音楽を担当していたので、生徒たちはこれらのクリスマス聖歌を習い口ずさんだものと思われる。

アロイジオ・パッヘは1940年4月号に、牧野の上京旅立ちに際し、次の一文を載せている。

（前略）教区報は毎月一回発行四頁の新聞であつて（中略）、どれほど犠牲の多い辛い仕事であつたかを、毎日神父様のそばにゐた私はよく知つてゐます。わずかの頁の中に四五十の記事を収め、然も多くの人々に面白く読ませ、靈的生命に益するやうに編輯することは（中略）並大ていの仕事ではないのに、その上に殆ど全部

の記事は生の材料から原稿に作り上げなければならなかつたのです。(中略) やがて大学者となられた牧野神父様がこの編集部にお帰りになるその日を大いに期待して、御健康と御奮励のほどを祈り上げて居ります。(『名古屋教区報』第4巻第4号1面、1940年4月14日)

1940年、臨時教区長会議は宗教の国家統制を強める宗教団体法公布に対処し、外国人教区長や学校長の辞任を決定した。ライネルスは南山学園中学校理事長・校長を辞職し、牧野房男を教員資格取得のため法政大学に入学させ、将来の日本人聖職者による校長職の継承を期待した。同年4月に上京した牧野は、学業のかたわら西小山教会の司牧を兼務した。前任のイギリス人ウオード神父が敵国人との理由で国外追放になり、牧野が急遽同教会に移り住み後任司祭を務めたのである。



1943年2月 松岡孫四郎教区長の司祭叙階25周年記念  
中段左から ポンセレット 牧野房男 松岡孫四郎教区長

1944年9月に法政大学卒業後、強まる宗教弾圧や空爆による教会堂焼失などで苦しむ名古屋と新潟両教区の各地を巡回する多忙な日々が終戦まで続いた。見せしめのために憲兵隊に連れ去られ新潟の刑務所で獄中生活にあったフランツ・サウエルボルン神父(1948~53 南山高等学校教諭)の身元引受人として左官の将校と話をつけ引取りにいったのもこの頃のことであった。

1945年8月28日、ライネルスが逝去した。南山学園理事会は同年10月30日、理事牧野房男を南山中学校第四代校長に選任、文部省認可手続きを経て、

1946年1月1日付で校長に就任、同月24日に着任式を挙行した。牧野房男新校長は、南山の飛躍的發展を期し、その第一歩を次のように記している。

終戦以来既に一年半の歳月が飛ぶやうに流れた。建設への血のにじむ苦しい努力が、廢墟の中にも孜々と営まれてゐる。一時は、荒涼たる焼跡に文字通り茫然と立ちつくした我々に、反省と苦悩とが、真の人間性の発見と追求をうながしてくれたのである。(中略) なるほど我々の周囲には、時として我々の内部にまでも、未だ恐ろしい荒廃が残つてゐる。しかし歴史が示すやうに、真の善きものは、常にひどい苦みの中から取り出される。金は火で試される。ただ我々がこの試練に耐へる勇氣と真理への信賴を失はない限りは——そしてこの二つこそ我々若い世代が、この胸裡に備へ持つ特権なのである。わが愛する南山学園も戦火で相当な痛手を被つた。しかし(中略)我々は、決して勇氣を失はない。復興を——単なる復興ではなく飛躍的な發展を目指して我々は既に立ち上つた。各方面、殊に同窓生、在校生父兄の方々の熱誠なる御協力を得て、種々の困難に屈せず、今夏、南山外国語専門学校の設立を見、創立者故ライネルス先生の夢でありまた我々の夢である綜合学園建設への一步を勇ましく踏み出したのである。(後略)(巻頭言、『南山』第6号、1946年12月25日)

教職員に対し、牧野校長は「愛情のないところに教育はあり得ない。生徒の中によいもの、純なものを見つけ出してこれを理解し、愛し育て上げるということに教育のすべてがある。どんどん生徒の心の中に入り込んで下さい。門を閉ざされたら、あなたの負けと申し上げたい。」とその所信を表明している。(『南山タイムズ』第4号、1947年11月1日)

一藤季雄(1940年就任、1947~1971年教頭)は「青年校長 牧野神父」と題して次のように述べている。

新校長牧野房男神父は名古屋教区所属司祭、南山学園理事で37歳の若い校長先生だった。(中

略) 師の校長就任により、従来の県立学校長経験者にかわって、南山にもっともふさわしい聖職者の校長を久し振りに迎えることができたわけである。若い元気で天才的な頭脳のひらめきを見せる牧野氏<sup>〔ママ〕</sup>を得て学園は急に若がえった様に思われた。野球もランニングも生徒と一緒にやる青年校長の明るさを生徒達は敬愛した。学課には宗教の時間が設けられ、学園には宗教的な空気がハッキリするようになった。講堂(現体育館)でライネルス校長の追悼ミサが全校生徒参列のうえ松岡教区長(南山学園理事長)司式で行われたことは学校始まって以来のできごとであり、私達にとっては無量の思いがした。

(中略) 新入生には今迄の生徒に見られない活力、素質のよさが感じられた。校舎の再建、後援会の組織、教育の切替え等々、新しい教育に対する仕事は山積したが牧野校長は、頭の明敏と若い元気を発揮し、快刀乱麻を断つように片づけて行ったのはなかなかの壮観であった。一方学園に帰って来られた、アロイジオ・パッへ神父と協力し、外語専門学校設立の準備、中学に女子部新設等の計画等が併行して着々進行していたのである。(『南山高等・中学校四十年史』、1974年)

ライネルスの後任理事に神言会管区長ポンセレットを、南山中学校校長に牧野房男を迎え、復興と発展の具体策を練ることになった。第一の問題は、半焼した西館(元小学校校舎)の復旧と、荒廃した本館(1945年10月、連隊区司令部が引き払ってから、中学校の教場となっていた)およびピオ十一世館、至誠堂の天井と屋根その他の修復である。これらの実務にあたるため、軽井沢にいたパッへは1945年11月、理事会に招かれて名古屋に到着した。専門学校設置認可申請書には、工事の進捗状況が次のように記載されている。

早急ナル本建築ハ不可能ナレバ仮校舎トシテ一時現在ノ中学校本校舎ヲ使用シ中学校々舎トシテハ当財団ニ属スル以前小学校々舎ヲ使用スル予定ナリ 同校舎ハ元来十三教室ノ外五室ヲ有

スル建物ニシテ先般ノ空襲ニ依リテ罹災シ半分ヲ焼失セルモ残存ノ六教室ハ現在鋭意修理中ニシテ本年六月迄ニ復旧ノ見込ナリ尚焼失セル後半モ本年度末迄ニ修復ノ見込ナリ又将来国内事情緩和セバ在外事業資金送付ヲ得テ直ニ本校舎ノ建築ニ取掛ル予定ナリ

しかし、工事がおくれ、一応1947年4月になって外国語専門学校と中学校とが校舎を入れ替ったが、中学校の大部分が西館に移ったのは同年9月9日、外国語専門学校が第二学期の授業をはじめた日、まだ五年生は当分のあいだ本館に残ることになった。



1946年 旧制南山中学校第11回生卒業記念写真  
第1列 中央 牧野房男第四代校長

旧制中学12回生で、後に牧野と同じ名古屋教区司祭となる道を歩んだ五味巖は、牧野校長の人柄について次のように記述している。

(前略) 牧野校長は関西的な抑揚が尾を引いたが、言葉づかいは上品で身だしなみも非常に良かった。(中略) 明朗で力強い校長を私は心から尊敬していた。(中略) 校長は家が貧しくてまじめな生徒を大事にしておられた。たしかこの時の寄附金は卒業後でもよいとされた。(中略) 私は卒業後東京の神学校へ入ろうかと思って校長宅へ相談にでかけたが、応接間の窓越しにひざまづいて司祭の聖務日課を祈っておられる校長の姿に接し、強く心を打たれた。私は清い感動で満たされ、(中略) 今、私も神父になったが、恩師牧野校長が今もって当時の先生方から慕われているのは深いわけがあると思う。(中略) 自分としての定見を持ちながら他人の意見をよく

聞き、明るい人間関係の確立を特に大切にされたからだと思う。彼には恵まれた社交性があり、神父としての良識から生徒とも本当にうまく行っていた。良いオヤヂのジジ臭い所を取り去ったものがハンサムな牧野校長だったと思う。

(『南山常盤会報』第4号、1968年6月1日)

久しい間キリスト教学校に加えられた弾圧が除かれたいま、単なる復興にとどまらず、進んで宗教教育を実践する学校を築くことが校長に課せられた任務である。1946年4月、上智学院で開催されたカトリック協議会で、パッセと牧野は、共同礼拝、朝の祈祷などにより学校のカトリック精神を表面に立てることが望ましいと述べ、カトリック教科書委員会設置を要望した。1946年7月の南山学園寄付行為改訂認可では、「基督教主義に則り専門学校令並びに中等学校令に基き教育を施すを以て目的とす」と、南山学園創立当初からの建学の目的が明記された。

1946年9月14日、南山外国語専門学校開校式に、財団法人南山学園理事長松岡孫四郎の代理として、牧野房男理事が次の挨拶を述べた。

(前略) 顧みますれば、故ヨゼフ・ライネルス博士が財団法人南山中学校を創設されましたのは、昭和7年1月のことで御座いました。これより先、ライネルス博士は、カトリック宣教師として明治42年我国に来朝以来、多年、新潟及び名古屋教区長として、キリスト教伝導に尽力されて居られましたが、其の豊かな経験と優れた識見とによりまして、国民生活の真の安定と福祉は、確固たる宗教的信念と道義に基く、高い教養を以ては、結極実現し得られないことを痛感され、斯うした

指導理念に基く総合的な教育機関の設置を企図されて、先ずその手始めとして、此の地に南山中学校を設立されたのであります。幸に学園は関係各方面の多大なる御後援に依りまして、順



当に発展の途を辿り、昭和11年1月には、小学校をも附設することが出来、従来我が中京教育界に微力を致して参りました。

所が其後、事変の勅発、その進展に伴ひ、一般社会情勢が甚しく変つて参りまして、小学校の方は一時閉鎖しなければならぬ様な事情となつたのであります。此の困難な時局にも屈せず、博士が種々の苦勞と戦ひ乍ら、如何に我が学園の発展の為に、孜々營々として努力されたかは、茲に御臨席の皆様方にも既に御聞及びのことと存じます。然るに時局は再び反転致しました。遂に我国は昨年8月15日の終戦の苦杯をなめることとなつたのであります。我が国土を愛し、只管、我が国民の幸福の為にのみ、その貴い半生を献げ尽されました博士に、此事は、その文字通り、致命的な打撃を与へました。博士はこの恐ろしい嵐のさ中に、而も最後まで我が学園の将来を口にし乍ら、遂に同月28日、多治見修道院に於て、その聖い生涯を終へられたのであります。北陸にあつて、博士御危篤の報に接し、急遽駆けつけました私に、再三繰返されました御言葉は、「学校を頼みます」といふ一言でした。

「種播く人と刈入れる人とは同じでない」とキリストの御言葉にも御座います。博士の播かれた真心の種は、この焦土の中から、早くも芽ぐんだのであります。故博士の一周忌のその御命日に南山外国語専門学校の第一回入学合格者発表が行はれようとは、博士御自身は申すもがな、誰かその日に予想し得たでありませうか。(中略) 寔に微力なる私共が、此の終戦後の難かしい時代に斯くもスピーディに当校の設立を迎へ得ましたことは、一に、文部省を始め関係御当局の甚大な御厚意と御激励に依ることは申す迄も御座いませんが、(中略) 殊に現文部大臣田中耕太郎先生より賜りました、御厚情に対しましては、私共は勿論のこと、生前先生と御親しくして居られました、今は天国の故ライネルス博士も、如何に感謝を献げて居られることかと存じます。

播かれた種は斯く元気よく芽を出し始めました。併し申す迄もなく、刈入れは未だ遠く、否之、ほんの芽生へたばかりで色々の困難と苦労が残されて居ます。私共の希望は大きく、学園の開拓はこれからです。太陽の熱も豊かな肥料も此の貧しい園には是非必要です。各位の御同情と御鞭撻を得て、<sup>[ママ]</sup>始めて、花をつけ実を結ぶことが出来ませう。どうか今後とも皆様方の精神的物質的両方面の絶大な御支持、インティメイト・サポートを熱望する次第であります。私共と致しましても、微力の続く限り皆様の御期待に背かぬ様、我が愛する祖国日本の再建の為め、世界の為の日本建設の為に、及ばず乍ら専心致す決心で御座います。(『南山学園史料集名古屋外国語専門学校史料集』、2005年)

終戦後、学園復興が議せられたとき、理事長の松岡名古屋教区長は、名古屋教区としては司祭も財産も乏しいから教区内の布教に専念したいと希望し、中学校は神言会が経営するようにとポンセレット管区長に訴えた。この問題について、多治見神言修道院で協議が行なわれ、牧野も南山中学校長として参加し、松岡教区長の意見を代弁して、名古屋教区は司牧布教に専念するが、中学校経営は教区よりも修道会で行なう方が適当であると強く主張した。

ポンセレットは1947年6月30日に開催の学園理事会で新理事長に推薦され、ローマで、神言会総会長アロイス・グローセカッペンベルグから南山学園の経営を、そのすべての負債とともにひきうけることの裁可を得た。

このようにして、南山学園は1948年度以降、名古屋教区から神言修道会に経営を移すことになり、牧野中学校長は1948年1月8日付で退任、同日付

でパッヘが中学校長を兼ねた。そして7月15日の理事会は法人の経営譲渡、寄付行為変更等の手続きを済ませたので、松岡理事長らは寄付行為変更の認可を得てから10月25日付で退任し、ポンセレットについて管区長になったフーベルト・フラッテンが学園理事長に就任した。

牧野房男は1948年以降、カトリック名古屋教区からさいたま教区に移り、足利教会、前橋教会、館林教会、藤岡教会で司牧宣教に尽した。旧南山中学生が遠路訪れると、自らコーヒーを入れて歓待し、懐かしい南山学園時代の思い出話に花が咲く。戦後の暗黒の時期、若い牧野校長を迎えて、南山学園は秩序と明るさを取り戻し、全生徒、全職員が新校長を信頼し、校長も学園発展のため心血を注いだ、最も爽やかな時期であった。

「時なるも時ならざるも神の国を宣べ伝えよ」という聖書の聖パウロの言葉の大好きな牧野房男は、その南山学園という教育の場でまた諸教会の司牧の場で、神の国を述べ伝える実践に、その司祭生活のすべてを賭けて生きて来た。



2004年9月13日、藤岡教会にて帰天、享年93歳であった。その追悼カードには、「私は走るべき道程を走り終え、信仰を守り抜きました」の聖書の言葉が記されていた。

(南山学園史料委員会委員)